

令和6年度第1回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議 議事概要

日 時	令和6年9月20日(金) 13:30～
会 場	掛川市役所4階 会議室1

■出席者(敬称略)

No	所属等	氏名	出席状況
1	静岡大学 グローバル共創科学部 教授	須藤 智	出席
2	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 常務理事	藤原 学	出席
3	桑原淑浩司法書士事務所	桑原 淑浩	出席
4	ソフトバンク株式会社(掛川市役所 企画政策部 企画政策課 参事)	尾村 義隆	出席
5	NPO 法人かけがわランド・バンク 理事長	丸山 勲	出席
6	島田掛川信用金庫 島田本部 地方創生室 室長	齊藤 奈津子	出席
7	掛川市農業委員会 委員	鈴木 深雪	出席
8	掛川商工会議所 中小企業相談所 所長	山下 真弘	出席
9	医療法人 綾和会 掛川東病院 院長	宮地 紘樹	欠席
10	社会福祉法人 大須賀苑 高齢者福祉事業部 部長	伊藤 文子	欠席
11	掛川市社会福祉協議会 地域支援課 生活支援係 係長	堀場 美和子	出席
12	掛川市地区まちづくり協議会連合会会長	鈴木 浩	出席
13	株式会社LPフィナンシャルマネージメント 代表取締役	山崎 直人	出席
14	元掛川市教育委員	永田 孝明	出席
15	一般社団法人 日本承継寄付協会 代表理事	三浦 美樹	欠席

発言者	発言内容
1. 開会	
事務局	<p>皆様こんにちは。</p> <p>ただ今から、第1回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議を開催させていただきます。</p> <p>本日の予定ですが、この後、議事に移り、概ね2時間、午後3時30分までを目安として会議を進めてまいりたいと存じます。</p> <p>なお、本日は宮地 紘樹様、伊藤 文子様、三浦 美樹様から、欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。</p>
2. 委嘱書交付	
	省略
3. 市長あいさつ	
市長	<p>残暑厳しい中、会議にご参集賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>多死社会についての会議を開催するのは、かなりまだ珍しいと思っています。国でも多死社会を全面に出した審議会をやっている例はないと承知しています。ですが、報道等では使われ始めており、認知は広がってきています。</p> <p>多死という言葉はあまり使いたくない言葉ですが、多死に突入しています。目を背けずに着手していく必要があります。</p> <p>きっかけは2つあり、市内で亡くなった人の数が2年前に過去最多を記録しました。掛川市は、日本全体の1,000分の1くらいの縮図になります。少し前まで1学年が1,000人でした。少子化が進行し、日本全体で80万人を切り、掛川も800人を切っています。最新は700人台です。2年前は亡くなった人の数が1,400人、出生が700人台です。出生数の2倍弱が無くなる時代になっている状況です。</p> <p>市内でも、葬儀が小規模化し、葬儀場の数も増え、相続の数も非常に増えています。</p> <p>2点目は、相続の増加に伴い、空き家が増えていることです。</p> <p>空き家が生じるケースは、一人暮らしの高齢者がなくなった際に空き家になります。これからどんどん増えていきます。ですが、一見マイナスに見える空き家をプラスに持っていけるのではないかと考えています。</p> <p>皆さん、隣家が空き家というのは好ましくない状況だと思います。例えば、新しい世帯が空き家に入居し、お祭りの担い手になってくれば、地域も活性化する。</p> <p>多死社会によって影響が及ぶ範囲は広いと思います。どうしても対処療法的な考えになりがちですが、この現実を直視しながら、ピンチをチャンスに変えてよりよい未来を気付いていきたいと考えています。戸惑うテーマかもしれないが、忌憚ない意見をいただきたいです。よろしくお願いします。</p>
4. 自己紹介	
	省略
5. 会長・副会長の選出	
事務局	<p>次第5の本会議の会長及び副会長を選任させていただきたいと存じます。</p> <p>お手元の資料に「掛川市多死社会のまちづくりを考える会議規定」に「会議に会</p>

発言者	発言内容
	<p>長及び副会長を置く」と規定があり、「会長及び副会長は、委員の互選により定める」とございます。</p> <p>しかしながら、本日は、第1回目の会議であり、初対面の方も多いためと思われま</p> <p>す。</p> <p>差し支えなければ、事務局から、会長、副会長候補をご推薦申し上げたいと存じますがいかがでしょうか。</p>
委員	異議なし
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、事務局より会長に 須藤 智（すとう さとる）様、副会長に 藤原学（ふじわら まなぶ）様、をご推薦いたします。</p> <p>皆様、いかがでしょうか。</p>
委員	異議なし
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、当会議の会長に、須藤智様、副会長に、藤原学様のご就任をお願いいたします。</p>
6. 諮問	
	省略
7. 資料説明	
企画政策部長	<p>お手元の資料「多死社会のまちづくりを考える会議について」の1ページをご覧ください。</p> <p>この度、多死社会のまちづくりを考える会議を設置する目的ですが、掛川市では、令和2年度以前は1,200人前後で推移していた死亡者数が、令和4年度には1,400人を超えたことから、団塊の世代の高齢化による本格的な多死社会の到来に対して、事前の対策を有識者および市民と共に考え、人口が減少しても市民が安心して生活し続けられるまちづくりを目指すため、今回の会議を設置いたしました。</p> <p>次に、2ページをご覧ください。会議でいただいたご意見は第3次掛川市総合計画に反映するとともに、早期の対策が必要なものは、令和7年度から事業に取り組んで行く予定です。</p> <p>3ページをご覧ください。会議を開催するにあたり、庁内で負動産、産業、介護・健康・医療、地域コミュニティ、終活の5つの分野について、現状および課題、対応策について議論を行い、本日の会議に諮らせていただいております。</p> <p>続いて「多死社会のまちづくりを考える会議 基礎資料」の1ページをご覧ください。</p> <p>日本の人口に関する全国的な傾向については、平成20年を境に減少局面に入り、今後、加速度的に減少スピードが高まっていくことが推測されています。また、令和5年4月に社人研が発表した推計によると、令和25年には65歳以上の人口がピークを迎え、令和32年の2050年には人口が1億5百万人を下回るとともに、高齢化率は37.1%となり、その後も高齢化率は上昇し続けることが推計されています。</p> <p>2ページをご覧ください。</p> <p>掛川市の傾向についてですが、令和2年度の国勢調査では平成27年度の国勢調査よりも若干人口が増加していますが、社人研の全国的な傾向と同様、今後は人口が減</p>

発言者	発言内容
	<p>少していく予測となっています。</p> <p>3ページのグラフをご覧ください。</p> <p>赤の破線が平成30年の社人研による推計、緑の破線が令和5年の社人研による推計、黒の破線が掛川市による推計、オレンジの破線が現在の第2次総合計画の目標人口となっています。社人研が発表した掛川市の人口推計では、令和32年の2050年には10万人を下回る推計がされておりますが、社人研の推計を基に掛川市が独自に行った推計では10万人が維持される見込みとなっております。</p> <p>4ページをご覧ください。</p> <p>上のグラフは、掛川市の出生数と死亡者数を示したグラフになります。</p> <p>出生数の減少とともに、死亡者数は令和3年度から急速に増加しており、令和4年度にはじめて1,400人を超え、加速度的な自然減の状態が見られます。</p> <p>また、下のグラフは日本人と外国人の自然動態を示したグラフになります。</p> <p>外国人は亡くなる方が少ないため一定数の自然増が続いていますが、日本人については自然減が続いている状態です。</p> <p>5ページをご覧ください。</p> <p>上のグラフは、掛川市の転入・転出者数を示したグラフになります。リーマンショック後の平成21年度から平成26年度の時期やコロナの令和元年度から令和3年度の時期を除き社会増の状態となっております。</p> <p>また、下のグラフは日本人と外国人の社会動態を示したグラフになります。</p> <p>近年は、日本人による転出超過が続いておりますが、外国人の転入超過により社会増の状況となっております。</p> <p>ご覧いただいたとおり、長期に渡る少子化および高齢者の死亡者数の増加により、今後、掛川市においても人口が大きく減少することが予測されることから労働力人口が減少するとともに、地域経済が縮小し、日常生活の維持が困難になることが予想されます。多死社会に向けた事前の対策を行うとともに、持続可能なまちづくりを目指すことが必要となっております。</p> <p>これらの状況を踏まえ、庁内で各部会及び部会全体会を開催し、事前に配布をさせていただきました資料の「多死社会におけるまちづくりの現状および課題、対応策」に、分野ごと現状、課題、対応策をまとめさせていただいております。</p> <p>なお、資料の対応策の欄には、事業の実施の有無に関わらず、現状考えられる対応策を記載させていただいております。</p> <p>本日は、資料の現状、課題、対応策について、不足している視点や対応策の提案などのご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>説明は以上となります。よろしく申し上げます。</p>
8. 議事	
会長	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>先ほど市長からお話がありましたとおり、こういう問題を考えるというのは、日本の中でもまだ進んでいない取り組みと考えています。</p> <p>特に高齢社会については、世界の中でも日本が一番最先端を行っており、高齢者の数が一番増えているという現状があるわけですが、その中で、日本の中、世界の中でも、色々新しい問題がたくさん出てきており、それをどう解決するかへの答えはまだこれからみんなで見つけていこうとしている状況にあります。市民の方々が一緒になって考えて、解決策を探していくことは、これから日本の私達がやらなければい</p>

発言者	発言内容
	<p>けないと思ってるところです。答えを出すことはすごく難しいところがたくさんあると思いますが、今回皆さんがいろいろ意見を言っていただいて、行政の方が色々考えた仕組みは、多分日本の中でも、モデルになることができるのではないかなというふうに思っていますので、課題解決に向けて色々なことをチャレンジしていただきたいと思います。</p> <p>委員の先生の皆様におかれましては、実際の現場からの生々しいご意見をいただくと、実際の市民の方々の問題解決に繋がるのではないかなというふうに思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思っています。</p> <p>それでは、皆様からご意見をいただけてまいりたいと思います。</p> <p>事前に事務局から配布された資料により、初めに負資産の専門の分野に割り振られた委員の方からご意見をいただいたのち、その他の委員のみなさまからご意見をいただき、次の分野へと進めてまいりたいと考えております。また、全体で5分野にわたります。</p> <p>1分野15分ほどお時間を確保していただいておりますが、端的にご発言をお願いいたします。</p> <p>また、初回は市として実施できる、できない関わらず、多死社会を向かえるにあたり、必要な視点や施策を洗い出すために、会議として、専門の立場や市民目線から、客観的な外部からの意見として発言していただきたいと思います。</p> <p>初めに負資産分野からお願いします。</p>
委員	<p>分担されている課題に対して木を見て森を見ずになっており全体像が見えていないと思います。</p> <p>空き家を活用していくにあたり、商店街の空き店舗に新しい店舗を出す側からすると、場所があっても店舗を出すだけの理由がないので、まちづくりのビジョンのようなものをあげておかないと、空き家、空き店舗の活用についながらないのではないのでしょうか。</p> <p>まち中の店への買い物は、駐車場の問題があります。目的のお店で短時間であれば止められるとよいです。路上駐車できるような政策を考えなくてははいけません。そのために、まち中に新規出店を増やすという市としてのビジョンがあり、空き家を活用しようという順番でないといけないのではないかと感じました。</p> <p>移住者を増やすことも同じで、どうやって空き家を活用して移住者を増やすかということになるが、どういった方たちに来てもらいたいというビジョンが必要と思います。</p> <p>(1)空き家の増加について</p> <p>空き家は、中古車のように信頼感や透明性がそこまでなっておらず、空き家を購入する人からするとすごく不安があります。</p> <p>工務店団体側としては、空き家がどういう性能を持っているのかインスペクションし、耐震性やエネルギーの問題を気にするお客さんに断熱性能がどれぐらいあるかなどわかるような表示制度があるとよいです。業界でも動きつつありますが、スピード感をもって行うのであれば、掛川市独自の表示制度があってもよいと思います。</p>

発言者	発言内容
	<p>(4) 耕作放棄地の増加について</p> <p>世の中の物価の上昇により、建築価格や土地の需要も上がっています。</p> <p>浜松の上場企業に勤めている方であっても浜松地域で家を建てられず、掛川で土地を探す方も増えてきており、農村地域や少しのどかなところに暮らしたいという方の相談が多いです。</p> <p>耕作放棄地の話だけではなく、農地付き住宅で暮らしができますという広報は外から受け入れやすいタイミングになっているので、そのような方法も考えてもいいと感じました。</p> <p>また、静岡市は農地の集約を始めていると聞き、掛川では農地を飛び地で持っている方がすごく多いので、集約化できると生産性も上がるのではないかと思います。</p> <p>(5) 空き店舗の増加について</p> <p>創業したい方は、お客さんが来やすい場所が店を出す後押しになると思います。まちに出す理由付けができるような政策が欲しいと思います。</p> <p>例えば、商店街に面したところをもう少しオープンテラス化したり、大店舗にない魅力を出せるような店舗運営ができるように、店先の歩道を含めて使ってもよいとなるとよいと思います。</p> <p>路上駐車も短時間であればできるなどがあれば、創業支援につながるのではないのでしょうか。</p> <p>また、空き家の利活用方法として、宿泊事業として使うことを進めていますが、交通の問題が出てきます。</p> <p>まちから少し離れた空き家を観光として使おうとすることが魅力になると思います。駅からのアクセスが難しく、タクシーの台数が少なく待つことが多いため、ライドシェアで一般の方が副業としてドライバーもできるような仕組みがあると、空き家の活用が進んでいくと思います。</p> <p>また、豊橋では、空き家を地域コミュニティのデイサービスとして利用しています。医療法人による農地付きのデイサービスで、元気な方が朝畑仕事し、夜は飲み屋に業態を変えて、近所の方たちがのみに来ます。</p> <p>デイサービスとしての場所だけではなく、コミュニティの場所として、こういったことができるのではないのでしょうか。</p> <p>これまでこういった場で、いろいろな方と顔を合わせるができなかったので、医療や商工会の方と一緒にすることができれば、1つの行動で2つ3つの問題を解決できるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>(1) 空き家の増加について</p> <p>リバースモーゲージ制度を民間が行う場合、担保を持った金融機関がリスクを負うことになり、最終的に抵当権設定者の金融機関が処分することになりますが、やはり売れない物件は残ってしまい、空き家になってしまうと思うので、これを流通させるということは難しいと感じています。</p> <p>実際は更地の方が流通しますので、税金の補助などの対策で流通する仕組み作りが必要だと感じています。</p>

発言者	発言内容
	<p>また、空き家の問題で相談されるのが、リノベーションをどこの業者が良いのかわからないということです。リノベーションをする側にとっては非常に大きな買い物で、お客さんは信頼できるリノベーション業者を教えて欲しいと言われるので、市で推奨できるリノベーション事業者を紹介できるようにしてみてもどうでしょうか。</p> <p>県外から移住してくる方は特にわからないと思います。悪徳不動産業者ではないかと疑ったりしてしまうので、そういった対策も必要ではないかと思います。</p> <p>(5) 空き店舗の増加について</p> <p>空き店舗は、基本的に廃業している高齢者が多く、収入のない高齢者の方へリノベーション費用の融資は難しいです。</p> <p>金融機関としては、所有者ではなく、事業者に融資をしやすいというメリットがあるので、市でもこういった取り組みを紹介していただき、もっと広がればいいと感じています。</p> <p>(6) 地域コミュニティ施設の老朽化について</p> <p>地方創生を利用することによる国の補助金制度があります。</p> <p>利益を出す必要のある制度で、市の負担もありますが、将来的に修繕費や除却費などを考慮して一時的な補助金の支出の方が少ないのであれば、一つの手段ではないでしょうか。また、金融機関と連携して取り組む制度で、その後の事業継続についても金融機関で伴走していきます。</p>
会長	<p>他の委員の皆様からご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>空き家ですが、相続登記ができていないものがほとんどだと思いますが、責任の所在がはっきりしていないことが一番の問題です。</p> <p>相続登記が今年4月から義務化され、すごく反応が大きいです。</p> <p>このアナウンスをしている期間に、どのようなやり方があるか、議論をしていただきたいです。広報誌などで、空き家の解決事例やそのまま放置するとうなるという特集を組んでやっていただいた方がいいです。</p> <p>空き家で問題なのは解体費だと思いますが、解体の費用も新築した時から積み立てていくなど、そういう話を広報紙などですることで、市民の認識を高めてもらい、今後は増やさないという視点が非常に重要になってくると思います。</p> <p>(2) 所有者不明等への対応について</p> <p>相続登記をしたい方は自分の名前にしたいので、非常に協力的で、みんなに連絡を取ろうとしてくれます。</p> <p>ですが、空き家の場合は、誰一人協力者がいないため、なかなか進みません。</p> <p>市で空き家問題を解決しようという強い意志があるのであれば、重点的に人を配置したり、予算をつけるといったことに力を入れていかないと前に進まないということもあります。</p> <p>(4) 耕作放棄地の増加について</p> <p>国庫に帰属させる法律ができ、相談が来ます。いらぬ農地を今まで放棄できました。10年分の土地管理費相当額を国に納付する必要があるため、お金がかかりますが、お金がかかっても次の世代には残したくないという方がかなりいるので、選択肢</p>

発言者	発言内容
	<p>が増えたこともアナウンスして、解決したいと意欲を持ってもらうことも大事だと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>続いて、二つ目の産業分野に移ります。</p>
<p>委員</p>	<p>(1)働き手・担い手の人手不足について</p> <p>農業の後継者ですが、お茶や稲作に関しては、大変な時代になってきています。茶化の低迷が何年も続いており、フェアトレードが昨年度から始まっていますが、フェアトレードに乗った荒茶の工場の方はよいかと思われませんが、乗れなかったところはとても大変ではないかと思われま。今後どのように展開されるのか、皆さん注視されているところではないかと思ひます。</p> <p>農業に関しては、中間管理機構のなどを通し、貸借の代金もしっかりしてきていますが、若手の方が借りることがなかなかできず、後継者も少なく、年齢も高くなっているため、今後の展開を考えると、心配なところもあります。</p> <p>(2)耕作放棄地の増加について</p> <p>和栗プロジェクトも始まりましたが、有害鳥獣による被害がとても多いので、対策をしなければいけないですが、土地を借りてまでするにはハードルが高い、という方がとても多いように思われます。</p> <p>(5)継承問題について</p> <p>世界農業遺産の茶草場農法の草を入れる作業がとても大変で、草刈りを歳の方がやり、草入れを若い人がすることがだんだん減ってきています。若い方が農業を辞めて外に出るといふ方も多く、大変になってきたといふ話をよく聞きます。</p> <p>深蒸し技術に関しては、機械がとても優秀になっているので、機械に任せればなんとかなると、お茶を持つてゐる方はいいですが、毎年お茶に合わせて最高の状態にするところが難しいといふ、話をよく聞いています。</p> <p>農業に関しては、本当に高齢化が進んでおり、仕事の段取りなどがなかなかできなくなってくる。また天候によつても今年のように暑いとなかなか仕事が進まない。</p> <p>そういったこともあり大変になってきているので、多死社会も考えつつ、いろいろな課題がとても多いと思ひております。</p> <p>私が思うのは、営農型太陽光が増えてきていますが、柿やミョウガ、レモン、ブルーベリーがよく作られているといふ話を聞きます。</p> <p>掛川の特産物として何か一つ太陽光の下ででき、みんなで共有して頑張りとういふものができれば、とてもいい方に向くのではないかなと考へております。</p>
<p>委員</p>	<p>(1)働き手・担い手の人手不足について</p> <p>先週ぐらいの新聞に、静岡県内の大学生のUターン率が50%台と報じられ、これをもっともっと上げていく政策に取り組みが必要と思ひます。</p> <p>今の中高生は、市が昨年度から始めた掛ジョブは知らず、親から就職先を紹介してもらうことは考へておらず、自分のやりたいことをやる。その結果、どんどんUターン率が下がってくる、といふ現状になっています。</p> <p>でも、もっとこの掛川の地域の魅力を今のうちに子供たちに伝えておけば、ここで働きたい、ここで地域のみんと暮らしたいといふふうに入っています。そのため</p>

発言者	発言内容
	<p>には何かやるべきことがあるのではないかと思ったところです。それが、将来的に担い手の確保に繋がっていくと思ったところです。</p> <p>(3) 空き店舗の増加について</p> <p>まち中の空き店舗は、お店のシャッターは閉まっていますが、奥に高齢世帯が住んでいらっしゃる。入口が一つしかないため貸し出すことができないという現実があります。その店舗を建て替えて、両親、子供、夫婦3世代で住みたいと言った場合、商業地域の為、住宅を建てるできません。</p> <p>まち中の買い物客増やすためには、まち中の居住人口を増やすことだと思います。まずは、そこに住む人が増えない限り購買力も上がらず、賑わいも出ないというふうに考えていますので、絶対的に足りないのはまち中の住める場所だと思います。</p> <p>マンションも増えてますが、もっと人を増やす政策と用途地域の見直しが必要だと思います。</p> <p>(5) 承継問題について</p> <p>掛川商工会議所で七、八年前、会員に「あなた事業承継者いますか、いませんか、今後どうしますか」というアンケートを取ったところ、後継者候補も含めて、3分の1の方は後継者がいます、3分の1はまだ自分が若いから、あまり考えてない、残りの3分の1は自分の代で止めるという回答でした。</p> <p>創業も少なからず進んでいますが、この3分の1の方が、おそらくこの5年10年の間に廃業していくと思います。</p> <p>廃業の理由は需要の低下です。取引先の売上げが下がってくるということです。お客さんがいるところについては、誰かしらが引き継ぎますが、産業構造、流通構造が変わっていく中で、何とか自分の元気なうちは自分の蓄えた財産を切り崩しても、商売を続けたいという方がいらっしゃり、その方が健康上の理由などで廃業するという現実で、避けられないと思っています。</p> <p>これに対して、なかなか思い付く方策がありませんので、そのためには新しい産業、新しくご商売をやりたいという方をどんどんこの地域により呼び込む、そのための何か特効策、アドバンテージを持たないといけないと考えます。</p>
会長	他の委員の皆様からご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。
委員	<p>(1) 働き手・担い手の人手不足について</p> <p>働く場の提供の欄に、若年層やシニア層について記載があります。実際、私の方に生活相談等、日々色々な方が、リーマンショック、コロナ禍、その後も来られる方が多いです。高齢者の方も、年金が少なく60、70歳を超えても働きたい、働かないとやっていけないという方たちがいますが、ハローワークや派遣会社は受けてくれず、本当に相談先もなく、シルバー人材センターや、タスクフォースだけでは難しいところまできていると思います。</p> <p>かといって、あまりよくわからない業者さんにそのままお願いするのもどうかと、私達も日々悩みながら行っています。</p> <p>高齢者の方の就労や働きたい方のこと、これから年金制度も変わってくる中で、2045年を見続けていたらいいのか、不安しかないので、そこについて考えていくべ</p>

発言者	発言内容
	<p>きではないかなと思います。</p> <p>また、外国人の方ですが、外国人の方たちは入ってくる方が多く、人口が保たれているとのことでした。</p> <p>実際、外国籍の方たちはとても働き者ですが、派遣で働いてる方が多いので、60歳を超えると同様に仕事を切られていきます。その後、60歳を超えて体調が悪くなり、仕送りをしていたりしていて預貯金がないという外国籍のご夫婦が相談に来ることがとても多いです。</p> <p>ですが、人柄が良かったりするので、外国籍の方たちを単なる労働者としてではなく、市民として捉え、地域のコミュニティの中の一員として考えていく政策も必要と思っています。</p> <p>言葉の問題も学ぶ場から含めて、先に先に対応して行く必要があります。</p> <p>また、今、母国で育ち、日本へ働きにくる20歳前の若い子たちがとても多く、家族だけが増えているので、そこへの働きかけも力を入れた方が良いのではないかと考えます。</p> <p>(2)耕作放棄地の増加について</p> <p>市民農園や農園オーナーを募集してます、という色々な助成金の制度があると思います。助成金があるので、一念発起してやってみたが、失敗されて相談に来る方がいますので、そのリスクを伝えながら、教育的なものも含めた情報提供をしていった方が良いと思います。</p> <p>失敗しないの方が多いのかもしれないですが、そうなっている人が割といるので、福祉分野の専門職などにも、こういった会で空き家などの課題を共有させていただけると、全体を見たときに、ここの分野だけではなく、みんなで共有できてよいと思います。</p>
会長	<p>新しいことにチャレンジする方をどう支援していくかは、教育的な視点としてもとても重要で、私もその点で色々な仕組みを作らなければいけないと思いました。</p> <p>続いて、三つ目の介護健康医療分野の方に移ります。本日欠席の委員からご意見をいただいていますので、事務局から紹介をお願いします。</p>
事務局	<p>お一人目の委員のご意見です。</p> <p>(1)医療・介護福祉職等の人材確保について</p> <p>国から必要な職種の配置人数等が定める施設基準がある関係で、東病院でも施設費を増やさないために病床を100%開放できない状況があります。他の事業所でも施設基準を満たしていても、実情は1人のスタッフにかかる負担が大きく、実際に継続することが困難になっていることが多いと感じられる、とのことでした。</p> <p>また、そういった関係で医療現場では時間外勤務を含めて、身を粉にして働く方が当たり前という考え方が多く、大変であり、実際にどれだけの人数がいれば持続可能な働き方ができるのか、各事業所に算出してもらうようお願いする必要があると思います。東病院では、当局の基準施設基準をクリアしているにもかかわらず、看護師に関しては15%ほど不足している状況になっている、とのことでした。</p> <p>また、シルバー人材センターや外国籍の介護人材に関して、現場での教育に時間が</p>

発言者	発言内容
	<p>かかるということで、教育への負担が大きいため、ある程度教育関係をセンター化して必要な事業所へ配置を行うための環境が求められているかと思います。外国籍の人材に関しては医療特有の記録・記載などを日本語で行うことが難しい点でもあり、これは、新しいテクノロジーなどを使用した解決策が求められています、とのことです。</p> <p>(5)単身世帯の社会的孤立・孤独死・見守り支援等について</p> <p>見守り支援不足について、医療や介護の観点からだけでなく、生活全般を含めて自助・互助の考え方を浸透させる必要があります。その際には公的サービスだけに頼るのではなく、地元企業のビジネスも含めたコミュニティケアの形の構築が重要となってきます。ステークホルダーを集めて、この辺の課題をどのように解決していくか協議する場を設けるのが良いかと思います。その際には市が設置しているシSDG sプラットフォームの連携等を活用することも良いかと思いますとのことです。</p> <p>(6)家庭での介護力の不足から(11)の認知症高齢者の増加について</p> <p>今後も老老介護や認知症当事者の増加に伴い、介護負担は掛川市でも2035年までに140%も増加するとされています。認知症機能低下の方を含めた要介護者をなるべく早急に把握し、適切な環境構築が求められます。行政および発信力のある医療機関等が市民に対して介護リテラシーを上昇させるような取り組みを検討する必要があります。</p> <p>また、高齢者と若者のシェアハウスなど海外でも実績があるような取り組みに関しては、積極的に試験運用していることも検討の余地があるかと思います。</p> <p>また、例えばVRを用いた認知症体験など、認知症に対する理解を深める試みも進める必要があります、とのことです。</p>
事務局	<p>二人目の委員のご意見です。</p> <p>(1)医療・介護・福祉職等の人材確保について</p> <p>介護保険の報酬上乘せ制度、加算は、現場が求める実情と合っていないところも多く、また、介護職員に偏っている傾向があります。</p> <p>対応策として、市単によって社会情勢や現場の下の状況に合った報酬の制度などが創設されることは有効と思われます、とのことです。</p> <p>(3)地区での担い手不足について</p> <p>民生委員や児童委員の関係で、個人主義や個人情報保護の意識が強くなった本日の社会情勢の中では、民生委員や児童委員が活動していくことがなかなか困難になってきています。そういった意味で、民生委員経験者からは、こういうことは公的なところがやるべきだとのこと声も多いです。</p> <p>対応策にあるそれなりの報酬をもらったとしても、なかなか引き受ける人が増えるのでしょうかということです。</p> <p>(8)介護難民の増加について</p> <p>対応策について、高齢者向けの住宅の団地化やケアハウス等の新たな住まいシステムは有効だと思います。まとまっていることで見守りや支援をしやすく、市民の安心感もありますのです。</p>

発言者	発言内容
	<p>(10)介護離職問題について</p> <p>近所の目を気にして在宅介護を余儀なくされる介護者は、現在はかなり減っていると感じます。早いうちから施設入所を望む家族の声が多いです。</p> <p>また、在宅介護を余儀なくされる大きな原因は、経済的課題があることが多いです。</p> <p>以上、事前にいただいたご意見を紹介させていただきました。</p>
会長	<p>人手不足の働きたい人たちがうまく働ける環境作りについて、シニアの活用が一つ大きな課題と捉えています。</p> <p>私どもの研究で、最近シニアの方がどうやって働けるかという研究を国からいただいています。まだ、未発表のデータですが、中小企業、零細企業の方にシニアの雇用についてどうかという調査をしたところ、結構人手不足だけれども雇用は難しいというような雰囲気の答えをいただき、人手不足なのにそこにはミスマッチ、ずれがあるんだとすごく実感しています。</p> <p>そこで、どうしたら働きたいと思ってる人たちと、事業者側、農業などの人たちが、どうやって働いてもらうか、モデルを作ってかなければいけないと、すごい感じているところです。</p> <p>特に医療福祉分野でも、介護の資格を持っている医療助手の方々のお手伝い、フォローする助手の方で、高齢者の方にうまく入ってもらうお仕事をする仕組みもありますが、うまくいってるグループは、伴走してしっかりと教育していくところを、行政の力を使いながら組織で行っているとよく伺っています。そういった仕組みでシニアの方が働くところにもポイントがありますが、事業者の方もどう受け入れていくかというところをうまく繋いであげるような仕組みがあるといいのかなと、介護や他の産業界においても同様な話なのかなと思いました。</p>
委員	<p>(4)医療、介護サービスの不足とニーズの多様化について</p> <p><b>介護職の介護離職対象者向け支援制度の創設とありますが、どんな内容のイメージをお持ちになっているのか、現段階で何かあれば教えていただきたいです。</b></p>
長寿推進課長	<p>現時点ではありませんが、離職した後も働ける資格の方もいらっしゃるもので、何らかの助成をしながら、止めた場所から別の施設でも働ける方に助成して、何年間働けば助成額は返さなくて良いという形で人材不足を補っていければと思っています。</p>
委員	<p>事業の紹介になりますが、財源は国が9割で、県が1割の制度で、離職なさった方に再就職の支援金の貸付を行っており、何年か就業すると返さなくてよくなる制度があるので、見ていただければと思います。</p> <p>あと、再就職のセミナーや介護の現場は日々業務が高度するため、そういったセミナーも県から委託を受けて県社協で行っています。</p> <p>どこで支援制度行っているか比べて、検討していただければと思います。</p>
会長	<p>続いて、四つ目の地域コミュニティ分野に移ります。</p>
委員	<p>(4)医療・介護・福祉の人材確保について</p> <p>仕事を求めている人たちはたくさんおり、具体的な情報発信やマッチング方法が検討できると良いと思います。80代で働きたい方は、介護保険も使わず元気でい</p>

発言者	発言内容
	<p>て、介護保険料を納めていますので、マッチングが具体的にできれば助かる人たちや元気になる人たちがたくさんいると思いました。</p> <p>また、(4)の⑥番に日本語学校や人材派遣会社と情報連携を図る必要がありますとありますが、具体的に今どういうふうと考えてらっしゃるか、こんなことができれば外国籍の方たちも助かると思いますので、マッチングを進めていけると良いと思いました。</p> <p>(5)地域での担い手不足について</p> <p>民生委員、保健委員、食推協の、担い手の確保は難しくなってくるため、どこまで民生委員や保健委員、食推協を増やし続けていくのか、考えどころになってきています。</p> <p>全体を底上げし、リーダーを作り、それを点で繋いで、線にして面にしてというやり方でこれまで地域づくりを行ってきたかと思います。全体の底上げは、ある程度、教育が進んできてることを踏まえ、そこに頼りきらないやり方があってもいいと思います。</p> <p>(8)公共交通の維持について</p> <p>公共交通の天浜線の駅やバス停のすぐそばに家がある方は、1本しかなくてもすごく便利です。1本でもあるなら、その時間に合わせた生活リズムを作っていくと、割と生活できたり、お買い物も行くことができることは、駅近ですよと話をさせていただいてます。天浜線の駅の近くに転入されてきて、都会で生活してたけど、天浜線の駅から、東京や京都までいつでも簡単に行ける。地域も温かく、食べ物も美味しいく、水も美味しく、こんないいところはないと言って住んでる一人暮らしの方も知っています。1本でも生活できるモデルや冊子があれば、掛川で楽しく暮らせるのではないかなと思います。</p> <p>また、高齢者住宅の団地化について、住み慣れた中山間地などから離れるつらさを持っている方や、そこで暮らすことを限界だと思ってる方の相談を聞きます。</p> <p>高齢者住宅の団地化や住み替えのすすめのような事業には、それを望んで来る方もいると思いますので、両方を選べるように、高齢者の団地化があってもいいと思いました。</p> <p>(12)地域コミュニティ施設の老朽化について</p> <p>空き家の解消にも繋がるかと思いますが、公会堂でサロンを実施してもそこまで行けない、そこまで行く足がないという話がありますので、空き家が公会堂的な場としてサロンや地域食堂ができると、すごくいいなと思います。</p> <p>その際、貸主から家賃が欲しいと言われてしまうと、家賃をどこが負担しますか、みんなで出しますか、となり話が止まってしまうことが何度もありました。</p> <p>税金や市の財政もありますが、税金を少し安くしたり、無償で地域に提供した場合、何かを免除できるとよいかもかもしれません。社会貢献の目的による空き家の提供で線引きをして、制度を作っただけだと良いと思いました。</p>
委員	<p>(1)自治会の継続危機について</p> <p>今までは小さな自治会でも若い人たちが多く、少人数でも頑張ってきた自治会が</p>

発言者	発言内容
	<p>たくさんありますが、地区で屋台小屋を建設しようと金融機関へ相談しても、高齢者ばかりで人数も少ないと借り入れさせてもらえないため、今後は自治会の統合等も考えていかないといけないと思いました。</p> <p>(3)自治会の加入率の低下について</p> <p>中心部はわかりませんが、郊外の地域では、若い人たちはスムーズに自治会に加入していただけます。</p> <p>ですが、建売住宅を高齢者が購入すると、今後、地元と付き合ってたってしょうがないから付き合いはしないよ、となりなかなか入ってもらえない。地元の役員も、あの人はちょっと変わってるんで駄目などで終わるのではなく、もう一歩手を差し伸ばして、一緒になって進んでいけるような、自治会活動ができればと思っています。</p> <p>(6)単身世帯の社会的孤立・孤独死・見守り支援について</p> <p>孤独死等問題もあり、民生委員の方と話す、毎日頻繁に通うわけにいかないし、個人的な問題もありますが、回覧板が溜まっていておかしいねと、近所の方が見てくれたという実例もありますので、地域自治会にとっては大事なことだなと思います。</p> <p>空き家対策ですが、今我々の世代もやることがないので、商売ではなく、半分ボランティア、半分遊び、半分自分が楽しめるような形で空き家を使って駄菓子屋をやろうかというような話があります。空き家になると建物が荒れてしまいますので、空き家になってからするのでなくて、空き家になる前に、みんなに協力を求め、一人住まいの方のいるところで、その方も一緒に仲間に入っていて、地域に駄菓子屋やおでんをやってみる。そういったものを今後、大事にしていきたいと思っています。</p> <p>また、先日区長会である方から、地域で麻雀教室をしている、というお話を聞き。この頃すごく流行ってきています。掛川のある地区で麻雀教室を開いたら女性が非常に多いそうです。麻雀で頭を使うことが、高齢者のボケ防止にもなると思います。自分の地域でもそういったことをやれたらいいですし、それが空き家を利用できるといいです。</p> <p>(12)地域コミュニティ施設の老朽化について</p> <p>公民館は古くなくても、各地域でかけサロンなど、月 1 回、お茶とお茶菓子を出し、100 円会費で、子供が来てもいいように行っています。子供は来なくてお年寄りが多いですが、回数をもっと増やしたり、公会堂が離れている地域が、遠くまで行くのは大変なので、新たにできた空き家に集まろうという形で運動していきたいと思っています。</p>
委員	<p>(8)公共交通の維持について</p> <p>先日長野に住む方が、45 歳で自分が 60 歳になったらどこに住むか考え、一生雪かきは嫌で、一番雪が降らず、土地もそれほど高くないということで、長野の土地を息子たちに譲り、掛川に移ったそうです。</p> <p>他にも、東京に家があり、若い人たちが住んで、掛川に年の大きい人たちが住み、年の大きい 2 人が亡くなった場合、東京にいる息子さんが帰ってきて、次の代に東京の家を譲る。そうすると、息子さんたちは家を買わなくても済むとなり、自分たちは実家の掛川の家を守りながら、時々その東京の家、神奈川の家に行くこと</p>

発言者	発言内容
	<p>ができます。</p> <p>もしくは、結婚されてない次男が帰ってきて実家を継ぐなど、色々な形をとっており、こういった方がうちの関係者に多いです。</p> <p>また、女性で年が大きくなって、バス停がそばにあるんですけど、体が弱くて買い物に行けない方は、周りの方々が夕方ぐらいに集まってきて、買い物行こうかと声かけてくれるそうです。</p> <p>そういうコミュニティを持てた人たちは、昔からコミュニティを持ってきたからいいんですが、ある程度になってから一気に作ろうと思ってもやっぱり難しいです。</p> <p>(13)地域の歴史文化消滅や散逸について</p> <p>先日、文化スポーツの方がうちに行きて、県指定文化財があるか確認に来ました。盗まれたり、売ったり、家がもう終わりとなった時に、次の代の人は何も知らず、クリーンボックスに入れてしまうというのが多いです。</p> <p>ですから、そうなるだろうと思うお宅に声をかけてます。</p> <p>住宅の方もそうですが、家に娘2人しかいないようなお宅で、子供は売ってもいいと思っても、自分の実家がなくなる、と親の兄弟が反対します。</p> <p>そこに私も入って、自分の実家が朽ちていくよりも、誰か他の人が住んでくれた方がいいよね、というふうに話をいい方に持っていきます。</p> <p>住宅が空き地、空き家になってから3年、5年経って使い物にならなくなる前に、売り買いができる間に、見る方向を変えさせていくことが、その手前に必要なことかなと思います。</p> <p>文化財もお宅にはこういうものがあると、現実を見てもらうことをできるだけしていかなといけないと、毎日生活しながら思っております。</p>
委員	<p>(4)医療・介護・福祉職の人材確保について</p> <p>資料の※印の箇所で、県社協が静岡県から受託して、国際介護人材サポートセンターを開設しています。まだ、始まったばかりですが、聖隷福祉事業団に元々勤めていた、海外とコネクションのあるコーディネーターの方がおり、我々はそれをサポートします。日本語学校とも連携しています。</p> <p>コーディネーターの方から、東南アジアの方は、昔の日本の人たちが持っていた優しさを持っており、そういう人たちをぜひ日本に来ていただきたいということでした。</p> <p>(5)地区での担い手不足について</p> <p>民生委員、児童委員の担い手不足ですが、民生委員自体も人によって何をやるのか。民生委員自身が何をやるのかわかっていないような部分があり、やりすぎている部分もあるのではないかと思います。一方で、行政から依頼することが多すぎるということもあります。75歳の年齢制限を取り払う形になっているはずですが。</p> <p>県では、民生委員、児童委員になる方をペアリングし、その方の費用を県が市町に対して助成する制度を作りました。</p> <p>掛川市が使っていなければ、検討していただきたいと思います。</p> <p>30ページの災害への対応について。</p> <p>熱海が土砂災害に遭った時、熱海市から遺体の処理に非常に困っていると相談が</p>

発言者	発言内容
	<p>ありました。ご遺体を洗わなくては行けないが、法律で公務員以外は触れないとなっているため、職員がメンタルをやられてしまいます。</p> <p>色々な葬儀場に協力依頼の連絡し、神奈川の小さい葬儀場の方が来て、直接触らない形で洗う手伝いや服などを綺麗にする作業をしてくださったそうです。</p> <p>また、火葬場では、熱海は農協に葬儀場のことをすべて委託していたようです。</p> <p>そうすると葬儀業者間で業界の暗黙のルールがあり、他の葬儀業者は手伝いができないがということで、そういったことは行政ではわかりません。</p> <p>災害の時に何が起こるのか、それには業界の掟があることを聞いておいた方がよい気がしました。</p> <p>また、身寄りのない方が亡くなった時に対応する人が対応マニュアルの作成と記載がありますが、今、国が何かモデル事業をやっていると思うので、調べていただければと思います。モデルを行っているところに聞けば、良い知見が得られるかもしれません。</p>
委員	<p>私からは、細かいことよりも、全体をお話させてもらいたいと思います。</p> <p>今回、個別にそれぞれ分野分けされており、これはこれで良いと思いますが、全体的なところをやっておかないと、うまくいかないと思います。</p> <p>なぜかという、家を買おうと思ってる人は住宅ローンの頭金のことしか考えていないです。頭金を払うことはいいですが、5年後に大学行く場合、大学の資金はどうするのというように、バランスが悪くなります。</p> <p>その方が、どのように生きていきたいのか。その時、お金の流れがどうなっていて、どこか詰まったりするのかを確認して、詰まる場所があるなら、なるべく早めに手を打つと楽に改善できます。</p> <p>今日の会議も同じで、ビジョンがどのような感じの絵図かできていないと、人は動けないです。まず、イメージを描くと、問題がわかるので、一緒にやれば動いていきます。</p> <p>空き家問題や耕作放棄地、相続など、全体で考えるとそれぞれの問題ですが、実は全部の問題です。</p> <p>例えば、介護施設に入りたいと相談に来てる人は、耕作放棄地や、相続などが連動してそうであれば、相続セミナーなどを使い、全体を示してあげる。</p> <p>あとは市で手続きをする場合、トータルでイメージして、1箇所に色々な部署の窓口があると、一回でフォローができ便利です。</p> <p>他にはセミナーで、まだそこまで興味がない人に具体的な話を言っても、まだ聞く耳を持ってないので、一般の人が聞きやすいセミナーをして、興味を持った人にうまくサポートしていくのがいいと思います。</p>
委員	<p>就活分野の(1)火葬場の運営について</p> <p>火葬場については、現状問題はないです。火葬待ちではなく、葬祭場を回すだけの中に人がいないため、葬祭場が空いていたとしても受けられない葬祭場待ちの状態です。</p> <p>(2)の富士見台霊園の管理について</p>

発言者	発言内容
	<p>37 ページの啓発活動の中に、無縁墓の発生を抑制するように管理者がいなくなるようなら早めに返還を促進する等、啓発活動を進めていく必要があるとあります。</p> <p>私は、手間がかかるかもしれませんが、墓地を持つてる人たちに、お宅の後に持つ人の住所をデジタル化しないで紙ベースにして、お墓を守る人いるかどうか。次の方がどこに住んでいるか、お墓を守る気があるかというアンケートをとれば、良いと思います。</p> <p>墓地を持っているがお墓を立てていない人などにアンケートをとってあれば、このお宅はまだ立てていないが、後々建てる予定があることが、担当の人が変わってもわかり、次の代の人住所も電話番号もわかり、20年、30年先の流れも大体わかります。</p> <p>告示行為など全部行っても、勝手にお墓を潰すと、関係者から訴えられて裁判で負ける可能性があります。</p> <p>地域墓地も同じで、地域墓地は、特に次の方が全くわからない。立ってるお墓が誰の持ち主かもわからないことがあるので、仏教会に投げ掛けてもらえれば、各お寺が推進して、お墓が次の人に行くか行かないかの整理をする協力していけるのではないかと感じています。</p> <p>(7)成年後見人の不足について</p> <p>成年後見人や司法書士、弁護士を増やしても、裁判所がその人を任命しない限り、何にも進みません。</p> <p>全然知らない後見人より、自分の知ってる人、希望する人に後見人になって欲しいので、甥、姪に自分の任意後見にしてもらえるようにし、公正証書にしておけば、いざというときに裁判所へ提出すれば、裁判所が判断してくれます。</p> <p>任意後見人は第三者の一般の人でもなることができ、掛川には、公証役場があるので、公証役場を活用しながら、勉強する場を作り、任意後見人を増やしていくと安心していくのではないかと考えてます。</p> <p>家庭裁判所による後見人の報酬を増やす必要があるとありますが、裁判所がその人の財産を見て、金額を決めるためできません。</p> <p>タダでも駄目で、任意後見人になる方は、いくらを設定してよいかわからないので、市が率先してこれぐらいが最低金額というものを作るとよいと思います。</p> <p>任意後見人になる方が、安心して請求ができるラインについて勉強をできるとよいと思います。</p> <p>報酬をもらうというよりも、地域の中で助け合うということで、任意後見人制度をうまく活用していくと良いのではないかと思いました。</p>
会長	最後に本日欠席の委員から書面でご意見いただいておりますので事務局からご紹介をお願いします。
事務局	<p>40 ページの(6)遺贈寄付について</p> <p>遺贈寄付は亡くなる前に、ご本人が寄付先や寄付の目的または金額等を遺言書に記載して、亡くなった後にその寄付が実行されるというものです。</p> <p>対応策の遺言書の促進として、遺言書作成の助成金の報酬10万円を利用してもら</p>

発言者	発言内容
	<p>うことで、費用負担を減らして遺言書作成のハードルをなくすことが考えられます。</p> <p>寄付の選択肢を増やすことで、仕方なく書く遺言書から、書きたい遺言書へ。それによって相続人不明の不動産をなくし、お金の流出を防ぎ、必要とされるところに循環させられるのではないのでしょうか。本日資料としてお配りしました三浦委員の団体で行っているキャンペーンのチラシ、活用されたらどうかということで、ご意見いただきました。</p>
委員	<p>空き家の問題が議論されていますが、ほとんど問題が起こった後の処理の話です。空き家は、その人と接してればもうすぐ空き家だと予測がつくはずで、先手を打つことができるはずで。</p> <p>それはどこのポイントかと考えると、医療や福祉の関係の方が一番近いのではないかと考えています。</p> <p>体が弱ってきた方が、施設に入りだすタイミングで、色々な身の回りの整理のことを考えられると思うので、空き家の相談案件になるであろう予測を立て、相談を受けていく事が、一番手っ取り早い空き家の特効薬になり得るのではないかと思います。</p>
会長	<p>皆さんご意見ありがとうございました。</p> <p>いろんな分野からいろんなご意見を伺えたと思っております。</p> <p>今のお話の通りで、ここに出てきた分野の問題は、やはり横断的な問題になってきているということは、少し考えられるのではないのでしょうか。色々な社会課題が複雑化してきていて、ある分野だけで解決できないというのは、色々なところで言われています。</p> <p>今回、色々伺っていて、各行政は、今そこまで縦割りではないと思いますが、縦割りの組織で解決できる問題とできない問題が多々出ていますとすごく感じました。</p> <p>今回体制のところ、いろんな課が縦、横に繋がり、色々なご意見踏まえてこれから考えていくんだろうと思いますが、さらにこの横の繋がりによる意見交換をしっかりやっていただくことが重要ではないかと思います。</p> <p>それをすることで、きちんとした答えが見つかりやすくなるのではないかと思いますので、現状のこの体制も含めて、色々ご検討いただくとよろしいのではないかと感じました。</p> <p>全ての議事が終了しましたので、進行を事務局の方にお返しします。</p>
7. その他	
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>また委員の皆様も大変熱心なご議論いただき、本当にありがとうございました。</p> <p>ここで、お礼も兼ねて、市長よりご挨拶をさせていただきます。</p>
市長	<p>皆様長期時間にわたり、本日は熱心なご議論いただきまして本当にありがとうございました。</p> <p>まだまだ、お話が足りない部分もあったかと思っておりますが、次回以降も引き続きご議論を期待したいと思います。</p> <p>私も今日伺っているながら、皆さんからの話で初めて聞く話がありました。</p> <p>おそらくこの場にいる誰しも、それぞれ詳しい分野とそうでない分野があるだろう</p>

発言者	発言内容
	<p>という中で、空き家にしても農業にしても、それぞれの問題は、前から指摘されることもたくさんあったと思います。多死社会というフィルターをとおして、全体をもう一度眺め回してみることで、何か生まれてくるものや全体的なビジョンの話もありましたが、何か構築できるのではないかとということも含めて、この場があります。全体と個別と両方の話を進めていくことが大変重要と思いますので、引き続きお力添えいただくことを期待いたして、御礼のご挨拶に代えさせていただきます。</p>
事務局	<p>第2回の会議については、10月29日火曜日15時00分から、場所は全員協議会室を予定しております。</p> <p>詳細につきましては、後日改めてご案内申し上げます。</p>
8. 閉会	
事務局	(省略)